

4月24日 復活節第5主日

互いに愛し合いなさい

ヨハネによる福音書 13章 31～35節

³¹さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。³²神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。³³子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。³⁴あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

他の朗読：使徒言行録 14:21～27 詩編 145:8～13 黙示録 21:1～5

Lectio…読む

今日私たちは、イエスと弟子たちと一緒に二階の広間で最後の晩餐に与っています。ヨハネは他の福音書記者と同じように「感謝の祭儀の食事」そのものを説明しません。その代わりイエスの命と教えに対しての洞察が与えられています。

イエスは弟子たちに新しい掟を教えるために、ユダが出て行くのを待ちます。ユダが心の中に抱いていることを悟り、彼が出てからイエスがこれについて話すことは驚くべきことではありません。

この「新しい」掟は、何が特別なのでしょう。神を愛し、隣人を自分のように愛することが求められていることについて、弟子たちはモーセの律法から十分に教えられていたはず（申命記 6章 5節、レビ記 19章 18節）。しかしイエスの教えと愛の模範によって、これらの掟を深めることができるようになります。他の三つの福音書の中でこの教えは、「最も重要な掟」として紹介されています（マタイ 22章 34～40節、マルコ 12章 28～34節、ルカ 10章 25～28節）。

ここでイエスが弟子たちに与えている新しいチャレンジとは、「わたしがあなたがたを愛したように」互いに愛し合う、ということです。イエスは、イエス自身である神が今や人の子の神性と権威を知らせている、と宣言します。弟子たちに対するイエスの愛、また私たちやすべての人に対するイエスの愛は、御父とイエスと聖霊の間に存在する無条件で相互の愛を反映しています。

キリスト者は、日常生活の中でこの相互的な愛を生きることによって、神の神秘的な愛を周りの人々に具現し、イエスの弟子であることを示します。この無条件な愛を実践することによって、ごく普通のキリスト者がヴェールを少し取って天国と三位一体から流れている愛を垣間見ることができます。

どうしてヨハネは三位一体の間の関係をこれほど強調しているのか、私たちは今ようやく分かります（ヨハネ 14～16章）。キリスト者の間の愛は、彼らに対するイエスの献身的で無条件な愛をかたどるものであるべきとイエスが主張しているのも、このためです。

Meditatio…黙想する

この箇所を読んで一番心に響いたことは何ですか。聖霊があなたに語りかけてくれるように願いましょう。

イエスが私たちが愛しているように、他のキリスト者を愛するというイエスの掟について、あなたが感じていることは何ですか。イエスは私たちに不可能なことを要求しているのでしょうか。私たち

はどのようにこの掟に従ったらよいのでしょうか。誰に助けを求めることができるのでしょうか。

神はあなたに、どのような形で他のキリスト者に神の愛を表して欲しいと願っているのでしょうか。考えてみてください。

Oratio…祈る

詩編 145 編 8～13 節の中で、神のいくつかの特徴が並べられています。神がご自分の似姿を示すために、私たちがこの世的な考え方を清めていけばいくほど、私たちは神の本質を反映し始めるのです。

神に心を開き、神の語りかけに身を委ねましょう。もし特にある人間関係の中で難しさを感じているなら、神の前でそのことを打ち明けてみましょう。

Contemplatio…観想する

黙示録 21 章 1～5 節は「新しい天と新しい地」について語ります。この約束を念頭において、イエスの新しい掟とこの幻のつながりについて考えてみてください。イエスは私たちを教会として、ご自分の花嫁にするために私たちを着飾らせてくれていることについて考えてみましょう。